

PHILIPS

Healthcare

Incisive CT

収益向上とブランド構築に 貢献するIncisive CT

あらかわ医院

愛知県尾張旭市に在るあらかわ医院は、地域に根差した医療を提供し、多くの住民の心の拠り所として存在している医療機関である。2022年10月にフィリップスの最新128スライスCT「Incisive CT」を導入した。今回は、CT導入の経緯から導入後の効果について、新川正治理事長、神谷宗可事務長、そして渡邊和樹放射線課課長にお話を伺った。

あらかわ医院の特長を教えてください

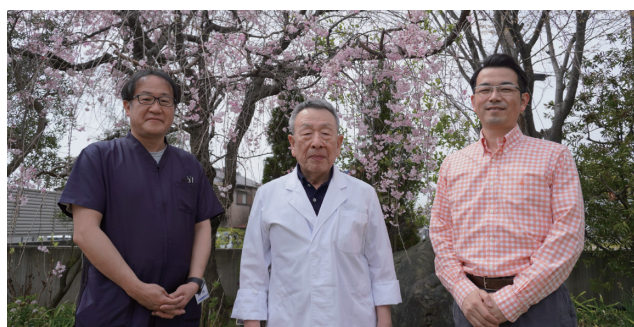
新川理事長：地域住民の健康を支える身近な存在でありたいと思っています。高齢化社会が進んでいるなか、地域によっては高齢者への医療サポートが不十分であり、患者さん自身が見捨てられたと感じるケースもあるようです。当院では、高齢者から小さなお子さんまで、どんな患者さんでも一人一人真摯に向き合い、適切な診断から治療へ導くということを行っています。医療機関として当たり前のことですが、患者さんをしっかり最初から最後まで診るということが当院の特長です。今回、新しいCTが導入され、今まで以上に診断やフォローアップがしやすくなりました。

CTを更新するにあたって重視したところはどこでしょうか？

神谷事務長：以前使用していたCTはとても長い寿命でとても頑張ってくれたなという印象があります。ですので、次のCTも長く安心して使えるというのが一つのポイントでした。また、以前のCTではスペックの問題があり、十分な検査ができない、撮影スピードが遅いということは聞いていましたし、患者さんの負担にもなっていました。新たに導入するCTでは、幅広い検査ができること、撮影スピードが速いこと、また、患者さんの負担を軽減した検査ができることなどがポイントでした。そして、被ばく線量の低さも重要だと考えていました。



あらかわ医院



左から渡邊和樹 放射線課課長、新川正治 理事長、神谷宗可 事務長

「最小限の被ばく線量で検査をしています」

Incisive CTにはAI画像再構成のPrecise imageが搭載されており被ばく線量の低減に貢献できますが、実際にPrecise Imageを使用してみているかがでしょうか？

渡邊放射線課課長(以下、渡邊課長):検査する側として被ばく線量は常に気にしていますし、最近では患者さんから直接言われることもあります。「被ばくはどれくらいですか?」「被ばくは大丈夫ですか?」のように、被ばくを気にされている方が以前より多くなった印象があります。我々はそういった患者さんに自信をもって「最小限の被ばく線量で検査をしていますよ」と伝えることができます。Precise Imageは被ばく線量を低減しながらも、画質を犠牲にすることがないので重宝しています。患者さんにとって優しい検査、低被ばくで撮影できる点でもIncisive CTには満足しています。(図1:被ばく低減画像)

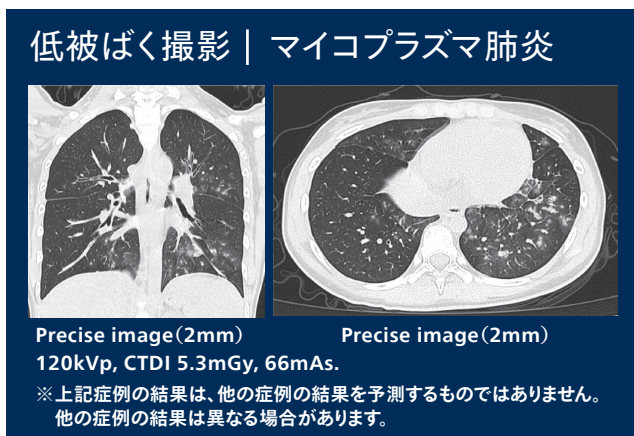


図1:被ばく低減画像

「Incisive CTは一人でオールマイティに操作ができます」

被ばく低減以外に、Incisive CTを導入して良かった点はどこでしょうか？

渡邊課長:やっぱりスピードが変わりましたね。実際に検査をしている立場として気になるのはスピードです。Incisive CTを導入して、患者さんがCT室に入ってから出るまでの時間が短くなりました。あと、他の施設だと1つのモダリティに担当技師が2、3人付いて、患者さんのポジショニング、撮影する人、画像を作成する人がいたりしますよね。その点、Incisive CTは一人でオールマイティに操作ができます。AIカメラでポジショニングをして、撮影して、患者さんを寝台から降ろしますが、オートでできる部分が多いのでとても効率的に検査ができています。検査が終わって患者さんに説明をしている時には画像再構成は完了しています。CT検査全体のスピードが上がっているため、CTにかかわる人員が少なく済んでいます。これも導入してよかった点です。(図2:AIカメラとコンソール)



図2:AIカメラとコンソール

また、以前のCTでは細かな病変が見つけられなかったというのがあります。今回CTを更新して、いろんなものが見えるようになりました。今まであまり処理していなかったMPRなど、多断面で画像を作成するようになりました。臨床科の医師が診断しやすい画像、見てもらいやすい画像を作成するようにしています。例えば、一つの骨折にしても、この断面よりこの断面の方が見やすいのではないかなど、臨時的に有用な画像はどういうものなのかを常に考えながら画像作成を行っています。これができるのも、元となるThin Sliceの画像がきれいになったからだと思います。(図3:高精細臨床画像)

「今までより一つ上のステップアップした検査」

臨床科の医師からの反応はいかがでしたか？

渡邊課長:「ほんと見やすくなったね」とか「以前のCTだと見づらかったのが、見やすくなった」というのはよく医師から聞きます。また、うちは読影センターに読影を出しているのですが、センターの医師からも「追加でこういう方向の画像も見たいので送ってほしい」という以前はなかったリクエストが増えていきます。

神谷事務長:やはり、これも元の画像が良くなったことの影響だと思います。今までより一つ上のステップアップした検査ができるようになったということではないでしょうか。

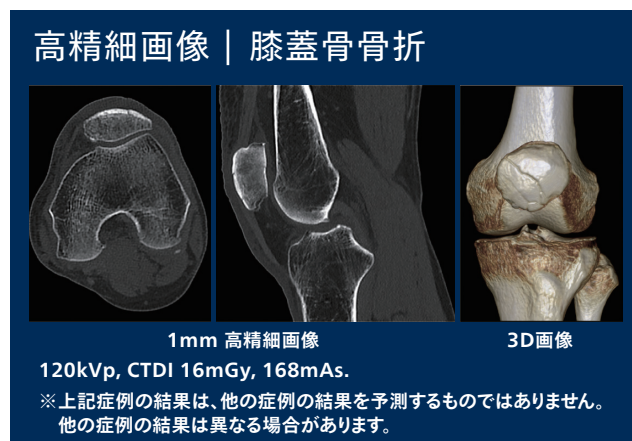


図3:高精細臨床画像

「医師がCT検査をオーダーしたくなった」

更新前に比べて、CTの検査数は増えましたか？

渡邊課長:かなり増えましたね。(図4:Incisive CT導入前後のCT検査数の変化)。臨床科からCT検査のオーダーを出しやすくなったからだと思います。検査時間もほんと短くなりましたし。

神谷事務長:患者さんがCTを求めてきているというより、医師がCT検査をオーダーしたくなったということだと思います。以前に比べ病変がはっきり見える。医師側からすると、患者さんの負担は軽減されていて、さらに診断に直結する良い画像が得られる。それが、CT検査数の倍増という結果だと思います。もちろん、患者さんの口コミもあるかと思いますが、CT検査を受けた患者さんが「良いCTが入ったよ」みたいなことを言っている。実はまだ当院のホームページには新しいCTの情報などは掲載していません。それでもCT検査数がこれくらい増えているというのは、やはり臨床科からの需要が大きいのだと思います。

Incisive CT導入後、CT検査数が増加

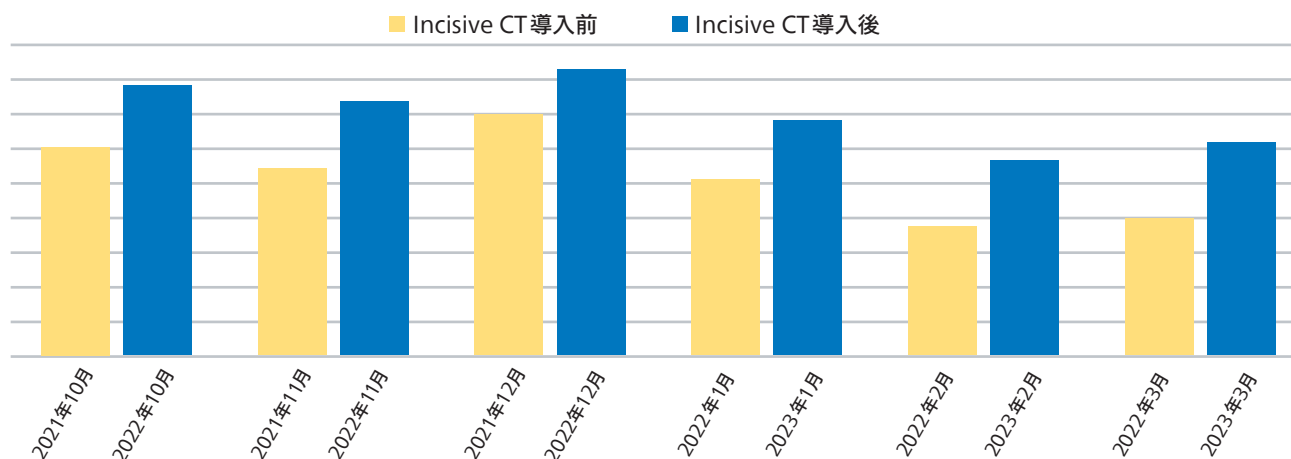


図4: Incisive CT導入前後のCT検査数の変化

「あらかわ医院のブランドの象徴にもなっています」

CTを導入して医院全体に影響はありましたか？

神谷事務長：今回、フィリップスブランドでCTとMRIを統一できたのは良かったと思います。MRIの空間も好きなのですが、同じようにCTでもフィリップスの統一感のある雰囲気や快適な空間を作ることができたのは良かったです。あらかわ医院のブランドの象徴にもなっています。(図5, 6: CT室とMRI室)

また、現在働いている方々にとっては良い医療機関で働いているという誇りにつながるかと思います。私は採用面接をする立場ですが、医療事務や看護師との面談の時などは必ず院内をご案内します。うちにはこんなMRIやCTがありましてと紹介した時のインパクトは大きいです。クリニックなのにこれだけの医療機器をそろえていて、幅広い検査ができるのかと。ここなら充実した環境の中で働くことができ、地域の医療に貢献できるかもしれないと前向きな要素になっています。仮にその方とご縁がなかったとしても、当院の宣伝効果にはなっています。

人材を確保する、職場環境を整えるという点でも貢献しているということですね？

神谷事務長：うちは健診センターも構えていますので、職員の健診にも力を入れています。通常の医療機関であれば限られた健診メニューしか受けられませんが、うちは様々なモダリティがあるので、豊富なオプションなども選択でき、それらを社員割引という安い価格で受けることもできます。MRIで脳ドックや心臓ドックなど

を受けることもできますので、それが職員の採用のきっかけになったり、定着にもつながると思います。福利厚生ですね。職員の親やご親戚に対してもこういった医療機関で働いているという安心感もあるのかもしれない。

「CTとMRIがセットでフィリップスであることで、検診でのオプションの幅がすごく広がりました」

CT検診の件数も増えてますか？

渡邊課長：はい、増えています。以前は、胸部、腹部のみでしたが、現在では、胸腹部を一気に撮影することもできますし、オプションでCTを選ぶ方が増えたような気がします。

神谷事務長：CTだけでなく、MRIもフィリップスですので、今回MRI側で色々アップグレードをしました。心臓検査もできるようになりました。要するにCTとMRIがセットでフィリップスであることで、健診でのオプションの幅がすごく広がりました。うちの営業部が、地元の中小企業に営業に行って当院で受けられる健診の紹介などをする時に「うちにはこういうモダリティがあって、CTやMRIもあって、こんな検査やこんな検査もできますよ」と経営者の方々に宣伝することができます。経営者の方々からみると金額は高いかもしれませんが、長い期間健診を受けるならこういう機関で受けてみようという気持ちにもなっていきます。そして、健診のリピートにもつながります。

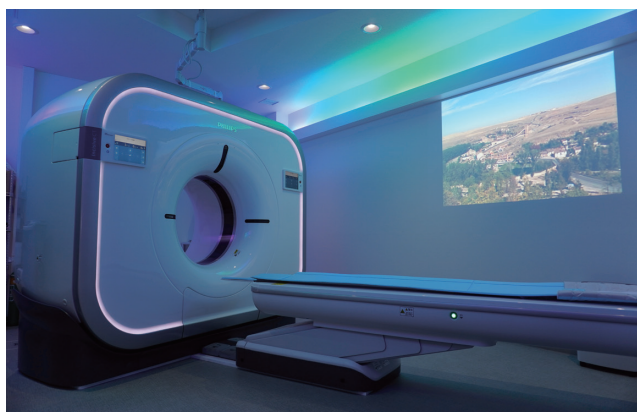


図5: CT室(Philips Incisive CT)



図6: MRI室(Philips Multiva 1.5T)

フィリップスのCTを導入するうえで不安などはありましたか？

渡邊課長：正直少し不安はありましたね。スタッフの中には他メーカーの方がいいのではないかと言う人もいました。私は昔、フィリップスのCTを使ったことがありまして、使い勝手のところで少し不満があったのは事実です。では、なぜ今回フィリップスのCTを選んだかという、Incisive CTは昔の悪かったところはなくなり、良いところがさらに良くなったということです。操作性はほんとに良くなっています。コンソールやタッチパネルはとても使いやすいです。そしてなにより、決め手となったのはフィリップスなら他院との差別化ができると思いました。他のメーカーにはない強みがあります。被ばく低減、画質、そして装置の安定性などです。

神谷事務長：実は昔、フィリップの営業担当の方と話をしていた、その方は「正直今のCTは自信がないです」、「CTであれば、他社製品を紹介させていただきます」と言っていました。これは当院のことを思って正直に話してくれたのだと思います。その営業の方が、Incisive CTが発売され、紹介していただいた時に「このCTは自信をもってご提案できます」と言ってくれました。製品知識が豊富なフィリップスの社員がここまで強い自信をもって勤めてくれたのはとても印象的で、選定で候補に残った要因かと思えます。

導入する時の装置価格や保守価格はやはり気になるところでしょうか？

神谷事務長：インシャルコスト、そしてランニングコストは当然ながら気にします。他社と比べるとフィリップスのインシャルコストは高いと思います。ただ、それなりの機能があるので、インシャルコストの投資というのは見合ったものだったと思っています。対前年と比べると件数は増えていて、患者さんの満足度も上がっていると思います。

今後のビジョンや実施したいことはありますか？

神谷事務長：現在、新たなCTを導入して対外的なアピールを積極的にしなくても、CT検査数が倍増したという実績があります。これは、医者にとっての満足度向上の結果だと思います。次は、対外的にアピールをした場合、さらに件数の増加があるかもしれません。そのあたりは、今後の楽しみなどところでもあります。医者への納得感や満足度を上げるだけでも、ここまでCTの検査数が伸びるのだということがわかりました。今まではコロナの影響もあり、患者数を増やす試みはしていませんでしたが、ようやくコロナも落ち着いてきて、次のステージへ移行できるかなと思っています。当院のHPのリニューアルやSNSなども活用していこうかと思っています。フィリップスのMRIやCTはとてもSNS映えますので、そのあたりもアピールしてもいいかなと考えています。

最後に、我々装置メーカーに求めることはなんですか？

渡邊課長：時代の流れの中で、日々検査の方法も変わっていきます。装置の性能が上がって、できることが増えました。我々としては、常にアップデートして最新の状態でCT検査ができるようサポートしてくれるフィリップスには感謝しています。

神谷事務長：やっぱりスピードがすごく大事だと思います。質もそうですが、スピードです。我々からのリクエストや装置に何かあった時に素早く対応してくれる。今回CTを導入するにあたってフィリップスのスピード感のある対応はとても印象が良かったです。今後も長いお付き合いになります。期待しています。

製造販売業者

株式会社フィリップス・ジャパン

〒108-8507 東京都港区港南 2-13-37 フィリップスビル

お客様窓口 0120-556-494

03-3740-3213

受付時間 9:00～18:00(土・日・祝祭日・年末年始を除く)

www.philips.co.jp/healthcare

改良などの理由により予告なしに意匠、仕様の一部を変更することがあります。あらかじめご了承ください。詳しくは担当営業、もしくは「お客様窓口」までお問い合わせください。記載されている製品名などの固有名詞は、Koninklijke Philips N.V. またはその他の会社の商標または登録商標です。



販売名：Incisive CT 装置
医療機器認証番号：230AFBZX00079000
設置管理医療機器／特定保守管理医療機器／管理医療機器